

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果概要

福岡市教育委員会 学校指導課

8分類中5分類で全国平均を上回る

小学校国語で大きな伸びが見られ、中学校数学では課題も

1 教科に関する調査結果

(1) 小学校の平均正答率

- 国語A, 国語B, 算数A, 算数Bの4分類すべてで全国平均を上回る。

	国語A	国語B	算数A	算数B
福岡市(市立)	76.7	58.9	79.3	46.4
全国(公立)	74.8	57.5	78.6	45.9
全国平均正答率との差	+1.9 ↑	+1.4 ↑	+0.7 ↑	+0.5 ↑

※福岡市の平均正答率：市の平均正答数を問題数で割り百分率にした値（市教委が算出）

※全国の平均正答率：文部科学省が公表

(2) 中学校の平均正答率

- 国語Aで全国平均を上回る。
- 数学A, 数学Bで全国平均を下回る。

	国語A	国語B	数学A	数学B
福岡市(市立)	77.8	72.2	63.9	47.3
全国(公立)	77.4	72.2	64.6	48.1
全国平均正答率との差	+0.4 ↑	0.0 →	-0.7 ↓	-0.8 ↓

※福岡市の平均正答率：市の平均正答数を問題数で割り百分率にした値（市教委が算出）

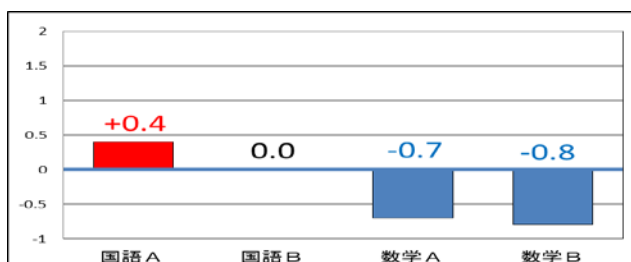
※全国の平均正答率：文部科学省が公表

(3) 全国と福岡市の平均正答率の比較

【小学校】

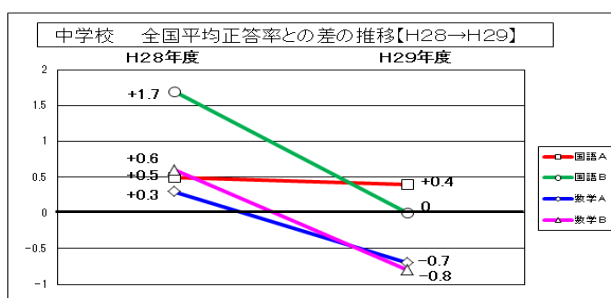
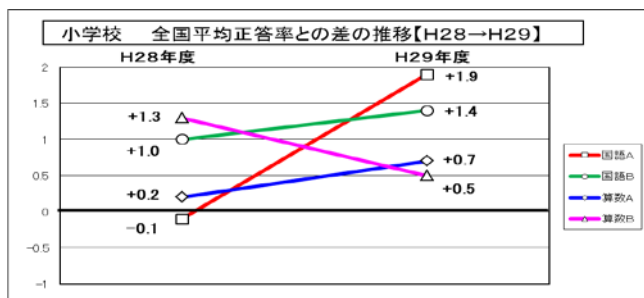


【中学校】



※全国の平均正答率を0として福岡市の平均正答率と比較

(4) 各分類毎の平成28年度と平成29年度の全国平均正答率との差の推移



【小学校】

- 国語Aが前年度比で2.0ポイント、国語Bが前年度比で0.4ポイント、算数Aが前年度比で0.5ポイント上がっている。
- 算数Bが前年度比で0.8ポイント下がっている。

【中学校】

- 国語Aが前年度比で0.1ポイント、国語Bが前年度比で1.7ポイント下がっている。
- 数学Aが前年度比で1.0ポイント、数学Bが前年度比で1.4ポイント下がっている。

(5) 小学校・中学校の標準化得点

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
福岡市小学校	101	100	100	100
福岡市中学校	100	100	99	99

※標準化得点：全国（公立）の平均正答数が100となるよう標準化した値

(6) 福岡市の正答率の高い問題・低い問題（本年度の正答率に見られる顕著な状況）

校種	教科区分	正答率が高い問題	正答率	正答率が低い問題	正答率
小学校	国語A	漢字を読む（期限）	95.6	手紙の構成を理解し、後付けを書く	42.2
		漢字を読む（指示）	95.5	漢字を書く（参加たいしょう）	46.0
	国語B	目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す 登場人物の相互関係や心情、描写を捉える	82.1	考えを広げ、深めるための発言の意図を捉える	29.4
			75.7	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く	32.7
	算数A	乗法で表す二つの数量の関係を理解している	97.2	二次元表の合計欄に入る数を求める	59.5
		乗法の性質を理解している	91.6	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする	62.0
	算数B	同じ関係が成り立つことを図に表現する	83.9	比較量を判断し、理由を記述する	12.5
		示された条件を基に、適切な式を立てる	78.8	仮の平均を用いて、平均の求め方を記述する	23.3
中学校	国語A	漢字を読む（覚悟）	98.7	多様な語句について理解する	33.3
		適切な語句を選択する（ただし）	95.1	楷書と行書の違いを理解する	50.5
	国語B	目的に応じて資料を効果的に活用して話す 登場人物の意味を考え、内容を理解する	86.0	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	41.3
			85.0	事実や事柄が伝わるように工夫して話す	58.9
	数学A	正の数と負の数について理解している	90.4	関数の意味を理解している	18.2
		平行移動した図形をかく	89.1	範囲の意味を理解している	26.6
	数学B	与えられた表やグラフから情報を読み取る	91.0	図形の関係を回転移動に着目して捉える	12.5
		考察の対象を明確に捉える	80.8	事象と式の対応を捉え、理由を説明する	13.6

2 福岡市の調査実施校数及び児童生徒数

- 小学校 143校，特別支援学校1校 第6学年児童 約11,790人
- 中学校 69校，特別支援学校1校 第3学年生徒 約11,330人
- 合計 約23,120人